

可児高校周辺の地域調査

岐阜県立可児高等学校 鈴木 真

I. 地域調査に当たって

授業時間を使って地域調査を行うのは、今回で3校目である。最初は、岐陽高校に勤務していた今から10年程前である。岐阜市北西部に位置する岐陽高校は扇状地上に立地し、学校周辺が扇状部分に位置し、柿畑が多く、柿畑が終わる扇端からは水田が広がる地形であったため、扇状地の授業に関連させ、生徒を連れて調査を行った。調査といっても校門を出たところにある柿畑に行き、柿畑の土壌の様子を調べたり、坂を下りながらどこで柿畑が終わり、どこから水田が始まるのかなどを1時間の内容で行った。時間は短かったが、いつも教室で行う授業と比べて野外ということで生徒も楽しく参加でき、実際教科書で学習した内容が身近な地域に存在していることを学ぶことにより、生徒の地形や地理に対する見方が変わったと思う。岐陽高校周辺の道路は交通量も少なく、野外調査もやりやすかった。

2校目は、東濃高校で2時間連続の授業として、東濃高校周辺の野外調査を行った。野外調査ルートは、東濃高校を出発し、北部のため池沿いの土地利用（畑の作物や林の植生など）を調査し、地図記号を確認しながら墓地、神社、寺院を經由して国道21号線にある水準点を確認し、消防署、法務局、裁判所などを地図と照らし合わせながら帰校するルートであった。帰校後は教室に戻り、本日のルートを赤ペンでたどりながら、報告書をまとめる授業内容であった。東濃高校がある御嵩町には御嵩簡易裁判所があるので見学ができないものかと事前に思い、問い合わせてみたが、学校単位の見学は行っていないということだったので外から裁判所の建物を見学するのみになった。

私は昨年可児高校に勤務しているが、昨年は地理を担当しておらず、そのため地域調査は行わなかった。今年は2年生理系クラスの地理を担当しており、11月に身近な地域の調査という項目で地域調査を行う計画を立てた。地域調査を行うにあたり、大切なことは調査目的の設定とその目的にあったルートの選定である。2万5千分の1の地形図で大まかな地形と植生を確認した後、可児市役所に行き、可児市の1万分の1地形図（2枚1組で1枚500円）を購入した。この地図を参考に夏季休暇や9月の期末試験期間中に可児高校周辺を何度も歩き、実際の地形の特徴を調査した。また、図書館で可児の歴史についても調べたが、可児高校のある坂戸地区は歴史的な遺物がそれほどあるわけではなく、しかも歩いていける地域に限定されるため、2時間でどのような内容を調査するのかということを決めるのに結構時間がかかった。

まず、可児高生は毎日、坂を登って通学しなくてはならない環境にある。この坂の成立原因は何かを考えさせたい。そして実際に歩くことにより、どんな植物が生育しているのか、また坂戸集落の成立原因は何か、上位段丘面と中位段丘面の土地利用の違いは何かなど実際に自分たちの目で調査することにより、河岸段丘に関する理解を深めたいと思う。また、地域調査を行うことにより、予備調査手段、野外調査の仕方・報告書の作成方法を学習することで教科書に書かれている知識だけでなく地域調査の方法を習得させることを目的とする。

II. 事前学習

野外調査に出かける前に事前学習を行った。教科書の例にならい、①課題の設定、②予備調査の方法、③野外調査の計画、④野外調査の実行、⑤報告書の作成と一連の方法を学習した。そして今回の授業は実際に野外調査に出かける旨を説明し、予備調査として、大懸神社の歴史を調べる係、愛知用水について調べる係、可児高校ができるまでの可児高校周辺の土地利用について調べる係、両親や祖父母に昔の坂戸はどんな様子であったかを聞いてくるなどの宿題を出し、当日発表してもらうようにした。また、当日の持ち物や注意事項を説明した。

平成 16 年度 2 年生地理 野外調査 指導計画書

教科	地理歴史	科目	地理 B	指導者	鈴木 真	指導学級	2 年 8 組 38 名
指導日時	平成 16 年 11 月 11 日 (木) 第 3/4 限			場所	可児高校周辺地域 (地図参照)		
使用教材	・最新版新詳地理 B (帝国書院) ・地形図「1:25,000 美濃加茂・小泉」(平成 10 年) ・標準高等地図 (帝国書院) ・地形図「1:10,000 可児市」(平成 14 年、昭和 47 年) ・新詳地理資料 (帝国書院)						

1. 単元 第 I 部 自然と生活
 第 II 部 世界の諸地域 1 章 市町村規模の地域調査 **1 節 身近な地域の調査・・・本時**
 2 節 離れた地域の調査
 2 章 地域を見る方法
 3 章 国家規模の地域の調査

2. 目標 予備調査・野外調査・報告書の作成という地域調査の方法を習得させる。
 実際に地域調査を行うことによって、地域の複雑な現象や問題を体験的に理解させる。

可児高校は、岐阜県南部の可児市に位置する創立 25 年目の学校である。クラス数は 3 学年で 26 学級あり、地理は 2, 3 年生の理系で「地理 B」を学習するカリキュラムになっている。校舎は木曾川がつくる「河岸段丘」の上位面に位置しており、まわりには岐阜県立農業大学校やグリーンテクノセンターなどの教育施設、可児市総合運動場や体育館、テニスコート、B & G プールなどの体育施設に隣接している。新しく開発された上位段丘面上に位置している関係から鉄道やバスなどの公共交通機関に恵まれておらず、自転車か徒歩で通学する生徒が 98.8 % を占め、非常に高い割合を占めている。多くの生徒が毎朝、この段丘崖を登っており、まさに「登校」しているのである。

今日は、通学路としてではなく授業として、歩く速度で普段見慣れている風景を調査、観察することによって、「河岸段丘」の地形をより深く理解するとともに野外観察をとおして地域調査の方法を習得することを目的とする。

3. 本時の位置 前回の授業で地域調査の目的、方法、予備調査の仕方などを学習した。本時は、可児高校周辺の地域に実際に出かけ、聞き取り調査や観察の手法を理解する。

4. 本時の展開

授業は 2 時間の連続授業とする。授業開始とともに特別棟 4 階に集合し、点呼を行う。本校の 4 階からの眺望は、眼下に木曾川によってつくられた河岸段丘が望め、可児市街や対岸の美濃加茂市街、山の上の段丘崖まで望むことができる。生徒に本日の野外観察の目的や注意事項、地形の説明、本日のコースなどを説明する。

校舎での説明後、靴を履き替えて、裏門に集合し、可児高校が立地している河岸段丘面の説明を受ける。その後、段丘崖の土地利用を調査しながら下り、坂戸の集落を通り、古い地図を見ながら段丘崖の下に古くから集落が立地した理由を考察する。坂戸の集落を過ぎ、可児川沿いの水田地帯を通り、古い地図に道路や新たにできた郊外型の店を調査する。その後、大懸神社の歴史を事前調査した生徒の発表を聞き、可児市街から愛知県犬山市に抜ける旧犬山街道のバイパスの機能を有する新県道御嵩犬山線の土地利用と近年の変化を調べ、可児高校が立地する上位段丘面の土地利用を調査する。教室に戻り、本日の野外調査の報告書を作成する。

	学習項目	学 習 活 動	指導上の留意点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 出欠点呼 本時の目標説明 	<ul style="list-style-type: none"> 説明をよく聞き、本時の目的を正しく理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 集合場所の徹底 地理学習における野外調査の重要性について周知徹底させる。 プリント配布・持ち物確認
展 開	<p>①校舎からの風景</p> <p>②段丘崖の調査</p> <p>③坂戸の集落立地調査</p> <p>④中位段丘面の水田地帯</p> <p>⑤新しい道路に立地する商業施設</p> <p>⑥尾根線と谷線</p> <p>⑦上位段丘面の利用法</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本校4階からの風景と地形図を照らし合わせ、5月に学習した「河岸段丘」の復習と本日の調査地域を確認する。 小地形の分野で学習した「河岸段丘」の復習として「段丘崖」の特徴を地形図の等高線を読みとり、段丘崖の標高差や植生などを調査する。 段丘崖のへりに立地する坂戸集落の特徴を理解する。 段丘面はどのように利用されているのかを調査し、理解を深める。 新犬山街道(県道御嵩犬山線)はどのように利用されているかを調査し、都市近郊のバイパス道路の土地利用形態を理解する。用意しておいたプリントに調査した店舗名を記入する。できれば建設された年も調査する。 上位段丘面上にある可児高校に帰る際に地形図の等高線を読みとりながら、自分が現在歩いている地形は尾根なのか谷なのかを視覚的な体験して理解を深める。 上位段丘面はどのように利用されているのかを調査し、理解を深める。また、この地区になぜため池が多いのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 約半年前に学習した分野なのでもう一度説明をして、理解を深めさせる。 等高線や地形図記号から読みとれるものと植生など実際の調査の結果、わかるものがあることに注目させる。 道路脇にある古い石碑などから昔からある道であることに注目させる。 水田だけでなく、利用されていない「休耕地」にも注目させる。また、地形の傾きにも注目させる。 交通量が多く、脇道から出沒する車も多いので、細心の注意を払って調査する。建設された年については聞き取り調査ができれば聞き取り調査を行う。 地形図の等高線の変化がきちんと読みとれているかを確認する。 新しく開発されたため、団地や公共施設などが多いことに注目させる。また、茶畑や果樹園などにも利用されている。
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> 調査のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 教室に戻り、本日の調査結果をまとめ、清書して報告書を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次回の授業予告

5. その他 生徒の引率者として、本校地歴・公民科主任の福井和弘先生にも同行をお願いした。

1. 野外調査の目的

- ① _____ の作成という、地域調査の方法を習得する。
② 実際に _____ を行うことによって、地域の複雑な現象や問題を体験的に理解する。

今日の授業は実際に私たちが通う可児高校周辺の土地に出かけ、野外調査の手法を学習する。

2. 調査地域の経路

本校特別棟4階 → 裏門集合 → はつらつ坂 → 坂戸集落 → 県道御嵩犬山線 → 可児川 → グリーンテックセンター前 → 坂戸台 → B&G海洋センター → 正門 → 教室

3. 予備調査
- ・本日の調査経路を昭和47年の地形図にトレースしよう。→作業
 - ・可児高校北側の傾斜が急な地形の植生を地形図から考えてみよう。
 - ・⑤の場所の土地利用を予想してみよう。
 - ・⑥付近は、等高線から考えて尾根線ですか。谷線ですか。
 - ・坂戸台は昔はどのように土地利用されていたのだろうか。
 - ・可児川北側にみられる土地利用で現在と違う点を探してみよう。

4. 持ち物 筆記用具、下敷き、プリント

5. 調査項目

①校舎から見える風景

見えるものを書いてみよう!

この地形の名前と特徴

②はつらつ坂の土地利用

坂戸集落と可児高校の標高差 可児高校()m - 坂戸水準点()m = ()m

どのような植物が生えているかを調査しよう!

③坂戸集落について

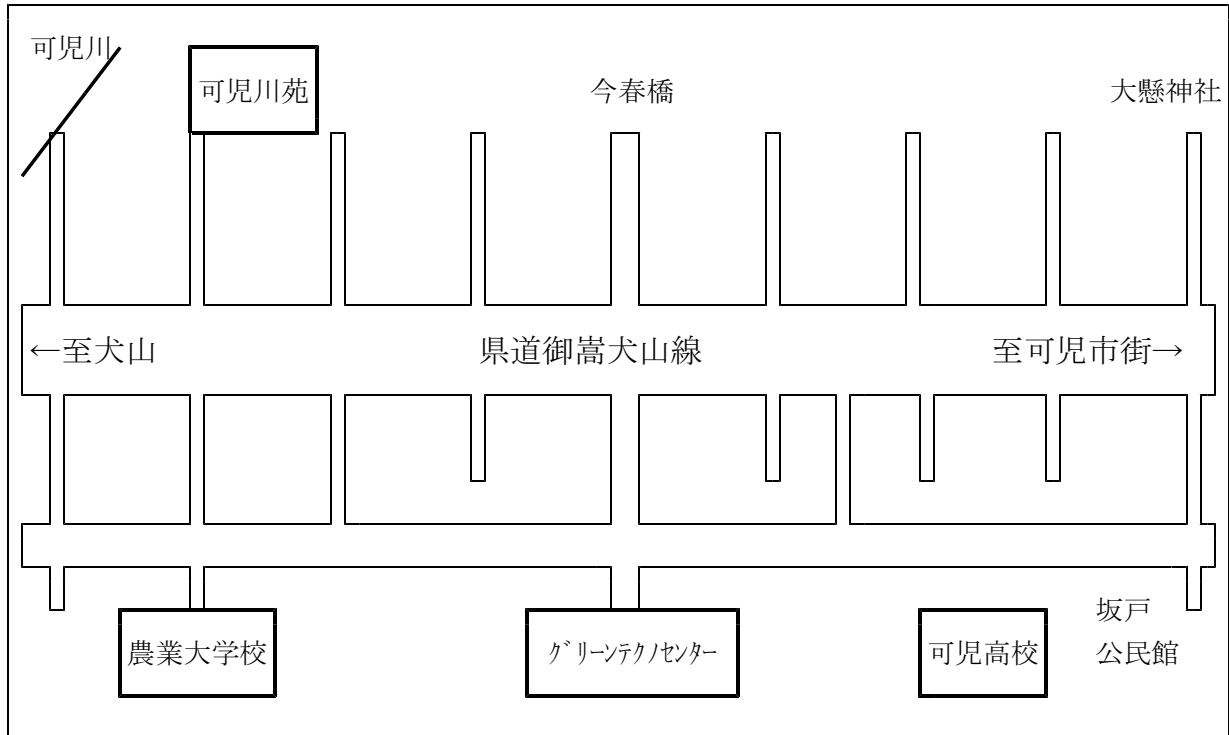
立地理由:

④中位段丘面の利用

昭和 47 年頃 :

平成 14 年頃 :

⑤ 県道御嵩犬山線の土地利用を調べよう！



⑥尾根線と谷線

地形図を見て、今通っているところは尾根線ですか。谷線ですか。

その理由：

⑦上位段丘面の利用法

可児高校がある面はどのように利用されていますか。

なぜため池が多いのですか。

6. 野外調査のまとめ

Ⅲ. 可児高校周辺の地域調査コースと写真



図1 昭和47年 1/10,000 地形図(可児市)

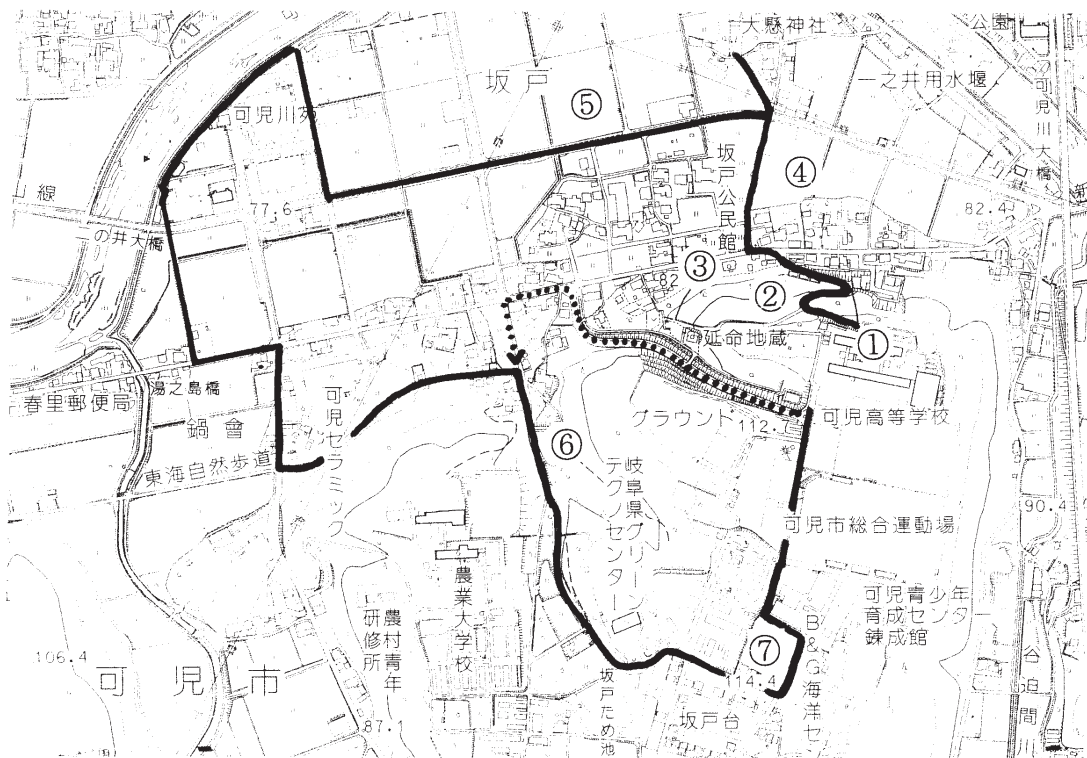


図2 平成14年 1/10,000 地形図(可児市)

—— 当初の予定調査ルート は2日目の短縮ルート



写真1 大縣神社を調査する生徒



写真2 段丘崖の説明を聞く



写真3 尾根線・谷線を調査する生徒



写真4 尾根線・谷線を調査する生徒



写真5 上位段丘面の土地利用を調べる生徒達



写真6 調査を終え、学校に向かう

IV. 野外調査の課題とまとめ

① 野外調査実施計画書の提出について

野外調査の実施にあたり、学校に計画書を提出した。その際、校外に生徒を引率する場合には警察に計画書を提出する必要があるので可児警察署に行き、書類をもらってくるように指導された。可児警察署の交通課に行き、書類の申請をしたがそのようなものは無いという。学校行事として野外調査を行う場合は、警察に提出する書類は必要ないと警察にいわれたと学校に報告するとそんな事はなく学校で野外活動をする場合は必ず書類を提出しなくてはいけないはずだということと言われて、再び警察署まで足を運んだ。可児警察署の交通課の話をまとめるとマラソン大会など集団で競技を行う場合には道路使用許可申請書を提出しなくてはいけないが、今回のような調査目的で普通に歩く場合は提出する書類は何もないということであった。実際はどうかという疑問が湧いた。他の学校ではどのようにしているのだろうか。

またルートについても交通量が多い道をわざわざ通る必要があるのか、もっと交通量の少ない道に変更はできないのかともいわれた。2時間連続の授業を設定する場合、調査範囲が必然的に広くなり、どうしても交通量の多い道を通らなくてはならなくなる。可児高校周辺はまだそれ程開発が進んでいる地域ではないため、交通量が多くない地域だと思うのだが、岐阜市のような都市部に学校がある先生達はどのように調査ルートを設定しているのだろうか。

② 天候について

11月11日に1回目の調査を行った。しかし、雨が降ってきたため、途中で調査を打ち切った。指導案の番号で行くと①校舎から見える風景は、学校の裏門から見える風景に変更し、②段丘崖の植生、③坂戸の集落立地、④中位段丘面の水田地帯を調査し、大懸神社に到着した時、雨が降り出した。ここで雨のやむのを待ったが、やむ気配がなかったので調査はここまでとなった。

傘を差しながら調査用紙と鉛筆を持っての調査は大変だと思ったからである。もちろん雨具としてカッパを持参するように指導すれば良かったのかもしれないが、調査用紙が濡れてしまい

それも大変である。天気予報をみて延期も考えたが、一緒に同行していただいた福井先生の授業の都合から、今回実施するか中止するかを選択肢しかなく、延期は不可能であった。2時間連続授業で2人分の時間割変更を行った関係からこれ以上の無理は言えなかった。

結局、ルートを短縮して他の日に残りの部分の調査も行った。⑥尾根線と谷線、⑦上位段丘面の利用法の調査を行い、2時間の野外調査は終了した。実施できなかった⑤新しい道路に立地する商業施設は、宿題にして各自で調査することにした。

以上、何とか地域調査をやり終えたが、多くの課題を残すことになった。ただ、生徒の感想をみると「いつも机に向かう授業が多かったので新鮮味があって良かった」「学校周辺なので知っているものが多いと思ったけど、実際に調査してみると思っていたことと違うことがあってとても良い勉強になった」「授業で習っていた地形が自分たちの周りにはあるとは思わなかった」など地域調査を通して地理学習がより身近に感じるものがきたと思う。



写真7 雨天のため、学校に帰る生徒達